

# カタルーニャ・クロッシング

カタルーニャと日本。人や企業、そして芸術、生活がクロスする現場を探ります。

## 第3回 大野和士氏(バルセロナ交響楽団音楽監督)



第3回は2015年からバルセロナ交響楽団(以下OBC)の音楽監督として活躍されている指揮者の大野和士さんです。お話は大野さんの就任記念コンサートからはじまりました。

**AMICS** サグラダ・ファミリアでの就任記念コンサートからお話を伺えますか。あの聖堂の中では実際、大野さんの位置からどのような響きに聴こえていたのでしょうか。

**大野** サグラダ・ファミリアでのコンサートは、私にとってはじめてというだけでなく、オーケストラ、コーラスの大編成がはじめて、NHKが8Kの画像音響機材を持ち込んだのはじめて、聖堂に3000人が椅子を並べて聴くというものはじめてという、はじめてづくしでした。現場の響きはなんとも幽玄な感じがありました。立ち上がった音がどんどん昇っていくんです。天上に召されていく音ととってもいい。ガウディ自身が、そのように救われようと思いがながら建築を進めていたのではないかと思います。独特なのは響きがいいというよりも残響が残るんです。他のゴシック聖堂では天井だと丸く削られたところに音が集合していくのですが、サグラダ・ファミ

リアでは丸く丸く、しかも高さや垂直性を保っているあのガウディの構造が音を吸い込ませるので、響きがそびえていくんです。それはどこまで昇っていくんだろうという感じでした。指揮者の私の立場からいうと、楽器ごとの余韻の長さを適切に設計しないと、不協和音になってしまう。そんな苦労もありました。

**AMICS** 音楽監督という立場でOBCの音をどのような方向性につくっていくのでしょうか。

**大野** OBCは(オペラをやるリヨン歌劇場とはちがいに)シンフォニーをやるオーケストラです。個々のソノリティは高く、うまい人の集まりです。このオーケストラはバルセロナの自然だと考えています。まず海があります。幾層にも変化する地中海の波や色、海のエネルギーです。そして山があります。そのエネルギーは屹立していく、立体的な構築力です。まるでモンセラットの山のように。このふたつのエネルギーを相もつオーケストラをイメージしています。それはガウディの建築とも共通します。ガウディはこの海と山を見てきました。カザルスもそうです。あの風景、あの二つの懐に抱かれて育ったんですね。

もともとOBCのルーツは戦前、カザルス音楽祭のために彼がつくった祝祭管弦楽団です。こんな話があります。スペインが内戦状態になり、練習の最中にフランコ軍がカタルーニャに入ってきたという報が入ります。「みなさん、続けますか?やめますか?」カザルスが投げかけるとメンバーは「マエストロ、続けてください!」と答えたそうです。その時の楽曲はなんだったと思いますか?ベートヴェンの第九でした。人間が生きていく、自由、尊厳を謳歌するあの交響曲でした。その精神がOBCには受け継がれているのです。ですので私は来年のOBCの日本へのツアーには第九を組みました。バルセロナでも春のプログラムで演奏します。

**AMICS** ヨーロッパのさまざまなオーケストラと仕事をしてきた大野さんが、コミュニケーションや練習の場で、カタルーニャを実感されることはありますか?

**大野** カタルーニャの方というのは、人を見る時、外面的なところから判断しないですね。時間をかけるという特徴があります。相手を静かに見極めて、数少ない人と親交を深めていく。そんなところは南ヨーロッパなのにドイツ人と似ているかもしれません。練習では集中しているとき、集中していないときがよくわかります。これは私の鏡ということにもなるんです。彼らが集中している時は、私のエネルギーの高い時、私自身がなにか途切れているようなときには、見事に彼らの集中が解けてしまう。それが正直に出るオーケストラです。集中とは別の次元ですが、ラテン系のオーケストラはおしゃべりが多いです。イタリアやフランスのオーケストラはこちらがシーと指呼するくらいおしゃべりしてますから。その点OBCは、集中力が途切れる度合いが少ない日本のオーケストラに近いですね。日

本では仕事にあんまり笑ってもらえませんから(笑)

**AMICS** 日本の指揮者の中にはドイツ音楽を上位と考えるのか、スペインはやらないというような方もいらっしゃると思うのですが、大野さんはスペイン的なもの、ドイツなもの、ラテンなものもOBCでのプログラムに設計されていますね。

**大野** 私が指揮者としての生活をスタートさせたのは、クロアチア(旧ユーゴスラビア)のザグレブです。その後、ドイツの歌劇場に6年、ブリュッセルの歌劇場に6年、リヨンの歌劇場に9年、そして今、バルセロナに来て4年目に入ります。客演指揮者としてもアメリカを含めヨーロッパ各国を回りました。そして住むこともできました。ですのでいろんなものを自分のまな板におくことができるようになりました。基準が多いですね。これは幸せだったと思います。ある作曲家をより良く理解するためには、異なる作曲家の音楽を知った方がいい。相対的に見れることが理解を深くします。バッハの違いや良さが、ベートヴェンを通してわかる。ワーグナーを通してベートヴェンがわかる。自分のまな板にいろんなものがあるほど、それぞれが濃くわかってきます。これは演奏家もおなじで、いろんなものを弾ける方がそれぞれに深い色を出せると思います。そしてOBCはスペインの作曲家は当然として、山的なベートヴェンやブラームスも、海的なドビシーやラヴェルも上手いんです。

**AMICS** 来年、大野さんが率いてOBCは24年ぶりの来日となるわけですね。歌劇も上演されると聞きました。

**大野** オペラはブッチェニの「トゥーランドット」です。ラ・フーラ・デルス・バウスのアレックス・オリエが演出です。1992年のバルセロナ五輪開会式で彼が演出した、矢が飛んで聖火に点火されるシーンは覚えている方が多いと思います。この20年ほどはオペラの演出実績を積み、高い評価を受けています。こんなものが劇場の中に建つのか?というようなことをやりますよ。楽しみにしてください。その1992年にOBCは日本を回っていますので、それ以来の来日になります。来年、2020年とOBCとアレックス・オリエは東京オリ・バラの文化大使として日本に来ることになります。オーケストラでは先ほど出たベートヴェンの第九番があります。他にもデ・ファリヤの「三角帽子」や、カタルーニャの新進作曲家が書く二台の三味線とオーケストラのための協奏曲が世界初演になります。これには吉田兄弟の三味線を起用し、カザルスの「鳥の歌」がテーマとして

出てきます。第九と合わせ平和を象徴するカップリングです。

バルセロナでは2020年の4月に、リセウ劇場でラヴェルのオペラを振ります。ピットにはOBCが入ります。これも期待してください。

**AMICS** 素晴らしいお話をありがとうございました。最後に、ヨーロッパの多くの地を見てきた大野さんにとってカタルーニャという土地はどう見えているのでしょうか。

**大野** 文化、歴史、政治、宗教的といったものが、みなこのカタルーニャを通していったんですね。ギリシャ的なもの、ローマ的なもの、イスラム的なもの、そういういくつもの時代を作った様式は、みなカタルーニャを通して北方へ向かった。であるならここはヨーロッパの中心だったのではないかと…この地に来てみてそう思います。それがカタルーニャの地と人のアイデンティティーなのだと思います。

### <AMICSの眼>

3年前サグラダ・ファミリア聖堂で鳴った音は、大野さんにどう聴こえたのが聞いてみたかった。4年目に入るOBCとのコンビが来年、再来年と日本で見せてくれるステージが待ち遠しい。取材後、「次にサグラダ・ファミリアで演奏が聴けるのはいつでしょう?」と聞いてみた。「わかりませんね。カタルーニャにとって大きな意味を持つ日でしょうか」という音楽監督の笑顔が強く印象に残った。

(取材/文 原正彦)

### 【大野和士 プロフィール】

- 東京都交響楽団・音楽監督
- カタルーニャ国立バルセロナ交響楽団・音楽監督
- 東京フィルハーモニー交響楽団・桂冠指揮者
- 新国立劇場 オペラ部門芸術監督
- "現代の音楽シーンにおける最も素晴らしい音楽感性の持ち主" として "特別な現象"(仏・フィガロ紙)

## 協会活動

### ◎カタルーニャ家庭料理教室

第一回カタルーニャ家庭料理教室(講師:パネッサ・ガルシアさん)が東京のキッチンスタジオで開かれ、定員15名満席の出席がありました。メニューは、パ・アン・トゥマカット、アスカリバダ、トルティーリヤ、豚肉のサンファイナでした。講師が料理を実演と説明を行い、参加者はできた料理をワインとともに楽しみ、好評のうちに終了しました。

また、第二回が9月27日に開かれ、フィデウア、ほうれん草のカタルーニャ風、トラダタ・ダ・サンタ・テレザを学びました。

【今後の予定】 第3回:12月予定 日程は決まり次第第4回にお知らせします



### ◎テルトゥーリア開催予定

10月にカタルーニャの踊り、バストンスに焦点をあてたテルトゥーリアが開かれます。講師はバストンス研究家の手塚かおりさん、日本におけるバストンス第一人者で、ご家族でこのダンスを学ばれ帰国されました。講演と実演の後、立食パーティーがあります。ぜひご参加ください。

日時:2018年10月9日(火)18:30開始 18:00より受付  
会場:霞会館(東京都港区西麻布)  
参加費:会員3500円 ビジター 4500円  
申込みはinfo@ajac.ne.jpまで(10月4日以降のキャンセルは不可)